

新タイプ

腐熟促進材

10aに10kg(1袋)でOK!

顆粒状

ワラ分解キング

低温時の稲わら分解に威力発揮!
ワキの発生を抑え、根張りを良くする。
環境にやさしい土づくり!

正味10kg



水田におけるワキの発生抑制

低温分解菌



資材の性状



動力散布可能

供給: JAグループ

製造:



片倉チッカリン株式会社

ワラ分解キングの特長



ワラ分解キングは、ワックス分解菌とセルロース分解菌のコンビネーションにより稲わらの分解を促進する**新しいタイプ**の分解促進材です。

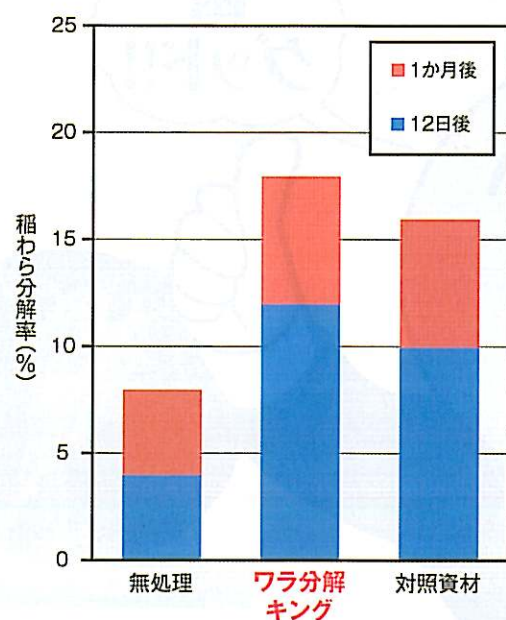
分解菌の種類

種類	名称	適温	分解能
糸状菌(カビ)	アスペルギルス属	10℃～30℃	ワックス(脂質)分解菌
糸状菌(カビ)	ペニシリウム属	10℃～30℃	セルロース分解菌

稲わら分解試験

稲わら分解試験(室内)

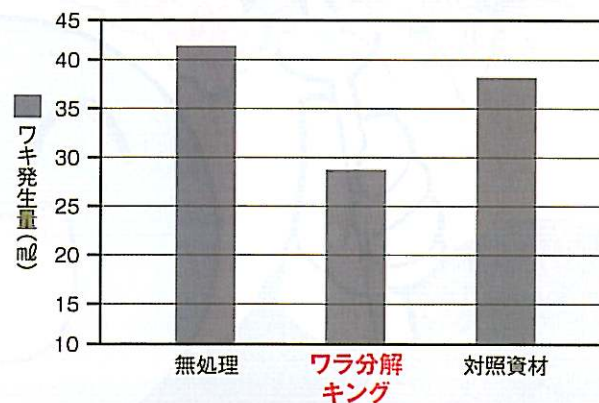
稲わら分解率:15℃条件



圃場春施用試験(福島県)

分解資材によるワキの発生調査

ワキ発生:3カ所平均値



調査区	草丈(cm)	茎数(本/株)
無処理	43	16.7
ワラ分解キング	44	17.5
対照資材	43	14.6

生育調査:20株平均値

使用上の留意点

- ワラ分解キングの使用量は、10aあたり10kgです。
- 稲わらに直接ふりかけて下さい(降雨後など、稲わらが湿った状態がより効果的です)。
- ワラ分解キング施用後は、できるだけ早く土壌にすき込んで下さい。
- すき込みの耕深は作業効率と酸素の供給を考慮して、5～10cmの浅うちにして下さい。
- 秋施用が基本ですが、春施用の場合は代かき45日前までにすき込んで下さい。
- 稲わらにはケイ酸が含まれています(10aあたりケイ酸:60kg)ので、ケイ酸の水田への還元を行い、不足分はケイカルなどのケイ酸質肥料で補うと、より効果的です。
- 稲わら分解のほかに、植物残さ・残根の分解にもご使用できます。
- 直射日光、長期高温になる場所を避け、開封後は速やかに使い切して下さい。

詳しい使い方については、農業技術指導機関、JA担当者等にご相談下さい。